

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報						
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要			
東京臨海広域防災公園			(指定管理者名) 公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要) 都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
指定期間						
R6.2.1 ～ R10.1.31（4年間）						
2 施設名		3 収支(単位:千円)				
東京臨海広域防災公園			令和6年度	令和5年度	令和4年度	公園別支出額
		項目	金額	金額	金額	
	内訳	収入 計	59,047	9,399	0	東京臨海広域防災公園:57,556
		指定管理料	59,047	9,399		
		利用料金		0		
		その他収入		0		
	支出 計	57,556	9,064			
	収支差	1,491	335	0		
4 管理運営の概要						
令和6年度の入園者数は92,564人と増加傾向にある。祭り参加や町会・自治会への挨拶（イベント紹介）等を通して、地域住民への知名度と親しみやすさが徐々に浸透しつつあると考えられる。 上半期は近隣住民のボランティアと協働で「花壇づくり」や「復興ひまわりの植付け」を行い、パークミーティング開催のため企業協議会や町会・自治会役員との関係性の構築を行った。下半期には指定管理事業イベント「防災フェスタ」「そらをみあげて」「芝生で体を動かそう」「防災×アウトドア」「東京防災DAYS」に加え、国営と連携した「ぼうさいモーターショー」や自主事業として「チューリップの球根植え付け」、参加者増員のための新聞折込を行い、防災意識の普及啓発を行い、防災を身近に楽しく学べる公園をPRした。						
5 管理状況						
①維持管理						
【公園の特性を考慮した維持管理】 ・専門ガーデナーの指導により、植物管理の知識や技能を習得した花壇ボランティアを中心に園内2箇所の宿根草花壇を定期的にメンテナンスすることで四季を通じ彩りのある修景花壇を適切に維持することができた。 ・園内の維持管理作業で発生した剪定枝を再利用してバイオネスト2箇所を新設し、清掃で回収した落葉の堆肥化を行い、腐葉土として花壇内に敷設、再利用した。バイオネストを活用した腐葉土作りにより発生材の資源活用および発生材処理の経費削減につながった。 【維持管理の作業効率向上】 ・機能性が高い大型の自動芝刈機を導入し、がん研有明病院南側、草地広場の芝地エリアについて、効率的な芝生管理を実施することで利用者が多く訪れる時期に、園内の緑地エリアを適切に維持することができた。 【安全・安心の確保】 ・台風、大雨、強風等の気象災害時には、事前に特別巡回を実施し、危険木や落枝の発見に努め、排水桝や側溝等の清掃、ハザードマップの危険箇所の点検、確認を適切に行い、重大事故を防止した。 ・維持KYミーティングを毎日実施し、社外の事故事例等も速やかに周知することで、作業員全員で危険予知、安全意識の徹底を図り、無事故、ゼロ災害で作業することができた。 ・ごみ管路収集設備の定期保守点検や毎月1回の夜間パトロールを円滑に実施し、園路灯の点灯確認をする等、適正な設備の保守管理に努めた。						
②利用者への対応						
窓口・電話・巡回・イベント・ボランティア活動を通じて、情報収集や利用者の声を集め、いただいたご意見はサービスセンター内で検討し、適宜公園運営に反映させた。また、他公園の事例を参考に園内の危険箇所等を見直すことにより、公園利用者に不便が生じないような環境整備を行うことができた。 占用申請への対応については、都市公園法や関係通知、指定管理の手引き等への理解を深め、申請の問い合わせには、実施内容や想定されている撮影内容などを丁寧に確認。許可の前例がないかを、職員間で確認や本社に問い合わせるなどして、適切に対応した。 地域コミュニティの連携についても、花壇ボランティアとの連携を通して公園の景観の向上を図るとともに他のボランティアとの交流を深めた。更には近隣の保育園・学校に対し公園を積極的に利用してもらうよう働きかけ、イベントなどに参加してもらった。 パークミーティング開催に当たっては、日頃、あまり公園を利用しないという方にも関心を高めてもらえるよう、積極的に園外に出て、地域の潜在的なニーズを把握し、その声を聞くことでより公園を身近にして頂くことができた。						
6 利用者アンケート結果						
実施方法：所内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対	
東京臨海広域防災公園	4.6	4.5	4.2	4.5	4.6	
7 入園者数の状況（単位：人）						
施設名	当該年度	分析				
東京臨海広域防災公園	92,564	昨年度より増加はしているが、増加の多くは集会・デモの開催に起因している。				
合 計	92,564					



東京臨海広域防災公園

花と緑があふれ、防災と減災を身近に感じ、楽しく学べる

The Tokyo Rinkai Disaster Prevention Park



所在地：江東区／開園面積：13.2ha

民間企業・行政・関連団体との連携による防災普及啓発活動

NEW 防災の基本を知る「防災フェスタ2024」

車いす介助方法、消火器の使い方、手話で伝える危険・困りごと、震災語り部のミニ講話、防災クイズなど多様なプログラムを提供。
参加者に防災時の備えを学んでもらう機会を作ることができた。



全ての出展ブースを回るスタンプラリーを実施（210人がcomplete）

Update 災害対策車両展示「ぼうさいモーターショー」

災害発生後の迅速な復旧・復興のために活躍する車両の展示・乗車体験を行い、災害を身近に考える機会を提供。**車両を通して約700人の参加者が自分の暮らす街の防災を知る機会となった。**



警察・消防・自衛隊・国土交通省 他、9企業23車両を展示

公園の魅力や地域の価値向上につながる取組

NEW 街とつながるイベント出展

武蔵野大学工学部学生が主催した「じゅんぐりマーケット2024」にAEDや担架の使用方を伝えるブースを国営と共に出展。
多くの学生に防災について考えてもらった。



防災について楽しく学ぼう！（AED体験）

NEW 土に触れる植付け体験

臨海副都心チューリップフェスティバルの開催に合わせて園内の植付けを体験。**近隣の保育園に参加を呼びかけるチラシを配布し当日は196人の笑顔の花が咲いた。**



チューリップの球根植付け体験

Update スペースを生かしたイベント

都会の広大な立地条件を活かした熱気球搭乗体験を実施。**自治会への告知により、イベント認知が拡大し、2日間で744人の参加につながった。**



空を見上げてin東京



協働作業で花壇を管理し、公園をPR

Update

花壇ボランティアが支える公園の景観

毎週火・水曜日に地域ボランティア(23日/延べ218名)と共に2つのテーマ(エリア)の花壇管理を行い、季節に応じて何度でも訪ねたくなる景観を維持した。またシンボルプロムナード公園のボランティアとは日頃の活動における**情報を共有する交流会も実施した**。さらに、**TV番組「趣味の園芸」**で取り上げられ、放送後2か月間で来園者が前年と比べ約1,200名増加するといった効果を得た。



オーナメンタルに秋・冬も楽しめるブリーズガーデン



周遊することが楽しくなる、四季の環 オアシスガーデン

親子で参加できるファミリーイベントの取組

NEW

ふれあい動物園の開催

近隣の幼稚園・保育園・自治会への広報により用意した整理券が数分でなくなり、**参加予定数の約5倍となる515人が参加**。また当日の運営も混乱なく、参加者の笑顔で溢れ「**毎年開催して欲しい**」「**開催してくれてありがとう**」と**喜びの声**をいただいた。



小動物とのふれあいやポニー乗馬体験は子ども達に大人気

効率的で環境に配慮した維持管理

Update

ロボット芝刈り機による効率的な芝生管理

GPSの位置情報を使用する大型芝刈り機を運用することで、地中にワイヤーを埋設することなく、**従前の約1.5倍(約30,000㎡)の効率性、環境性の高い維持管理を実施した**。



大型ロボット芝刈り機のメンテナンスの様子

NEW

バイオネストを活用したサステナブルな取組

ボランティアと共にバイオネストを初めて作成し、運用した。落葉投入や切り返しを行い、自前で**堆肥を作ること**で、**落ち葉処理の経費節減と生態系の多様性を高める循環型管理を実践**することができた。



新設したバイオネスト